

発行：伊勢市立伊勢図書館

指定管理者/株式会社図書館流通センター

伊勢市八日市場町 13-35 TEL0596-21-0077

<https://iselib.city.ise.mie.jp>

Voice!

夢とロマンであふれる宇宙のなかで、私たち人類にとって最も身近な天体である月。この4月には、NASAの「アルテミスII」が月の裏側の配信を行いました。それはアポロ計画以来の有人の月周回飛行です。

次のさらに次の月面着陸のまえに、人が月に降り立つことなど夢物語であったころの人々が残してきたお話を、少しのぞいてみませんか…？

☆YA キャラ紹介☆



イワイ

図書館ビギナー。
東から西へ移動することは知ってるし。
月より団子派。



えーちゃん

ベテラン図書館ユーザー。
それ太陽な。まあ、あってるちゃあってるか。
スマホケースは宇宙柄。

特集

人と月

竹取物語（日本）

「いまは昔、竹取の翁といふもの有（り）けり。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづの事に使ひけり。………」

でおなじみの、平安時代初期に作られたという作者不明の日本最古の物語、竹取物語。月の昔話と言えは、この物語を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。

竹の中から生まれた「かぐや姫」。すくすくと成長し、その麗しさに都の5人の貴公子も帝も夢中になりました。しかし、彼女は「私は人間世界の人ではなく、月の都の人なのです。」と言います。そして翁をはじめ多くの人がかぐや姫を月へ帰さないようにしますが、光り輝く天人の前にはなすすべもなく、彼女は地上の事を忘れて月の世界へ帰りました。

翁も帝もかぐや姫がいなくなったことをひどく悲しみました。かぐや姫は帰る間際、帝に不死の薬の入った壺と手紙を残していきましたが、帝は姫のいない世に命を惜しむ理由はなく意味がないと言います。そして不死の薬と手紙を、一番天に近い山の頂上で燃やすよう命じました。その山は駿河の国にあり、たくさんの土を引き連れて登った山として「土に富む山」即ち「富士の山」と名付けられたと伝わっています。

一千年以上前からあるという物語。ずっと言い伝えられてきたのはすごいことやんね。



月の都の人ってどんだけ美しいんだ…！？！



こっちでは不死の薬を飲むんやな。この仙薬の名前は、いろんなところでみるわ。



ヒキガエルが不死の薬を搗く姿より、うさぎが餅をつくほうがかわいいよな…



こうが じょうが 姮娥（嫦娥）（中国）

中国では、日本と同じく月にうさぎが住んでいると言われています。しかしその昔は、うさぎではなく、^{ひきがえる}蟾蜍が住んでいると言われていました。

むかし中国にそれはそれは美しい^{こうが}姮娥という女性がいました。^{こうが}姮娥は、弓の名人である^{げい}羿の妻です。あるとき、太陽が十個現れ、彼は弓を引き九個射落としました。それにより、女神・^{せいおう}西王母から不老不死の薬を手に入れます。しかし、^{こうが}姮娥はそれを盗み出し、秘薬を飲んで月へ逃げてしまいました。ところが、月につくと、その姿はたちまち醜い^{ひきがえる}蟾蜍に変わり、その姿で今も不死の薬を杵で搗いているのです。

ヒキガエルになった^{こうが}姮娥のお話は、前漢時代(紀元前 197～122 年)の以前から伝わっていましたが、だんだんと散逸していきます。いつしか^{はくと}白兔が月に現れ、玉のような色をしている白兔こと^{ぎよくと}玉兔、つまりうさぎが月の代名詞になっていきました。

つくよみのみこと

月読尊（月弓尊、月夜見尊）

古事記によると、月の神様である月読尊は、天照大御神と須佐之男命とともに三貴子と称されています。

伊邪那岐命が、亡くなった妻恋しさに向かった黄泉の国から戻った後、付着した穢れを落とすための禊によって、左目を洗うと「天照大御神」が、右目を洗うと「月読尊」が、鼻を洗うと「須佐之男命」が生まれました。伊邪那岐命は、その三柱の神々それぞれに高天原、夜の国、海原を治めるように命じたのです。

しかし、この夜の領域の神様である月読尊についての記述が少なく、古事記ではこの生まれたときのお話だけです。日本書紀では、別のお話もあるようですが、やはり同じ三貴子の天照大御神や須佐之男命と比べると少なく、不思議な神様です。

そんな謎多き月読尊は、読んで字のごとく「月を読む」神様で月齢を数え、暦を読むことを意味します。月は、太陽と同じく種まきや刈り入れの時期や魚の産卵期などを教えてくれた存在です。農耕・漁猟生活を営んでいた古代の人々にとって不可欠な天体でした。



日本書紀では、保食神を殺したっていうおはなしもあるん。似たお話が須佐之男命にもあるから同一神格という説もあるんやって。



月ってのは、昔から身近な存在なんだな。



平安時代には男性を待つ女性の気持ちを、月の満ち欠けを用いて歌をたくさん詠んでたぐらいだし。



あと、日本ではうさぎが月にいるっていう話もさ、国によっては女性の横顔だったり、カニだったり、本を読むおばあさんだったりもするんだよな！



今度、アタシにはどう見えるか月をみてみようかな…

イワイえーちゃん

34

つきはすごい巻



※ 天の岩戸伝説って知ってる？
ちょっと隠れたん。

こっちは日食やったらいいけどなの

【参考文献】

『日本古典文学大系 9 竹取物語』 岩波書店

『月のきほん ゆかいなイラストですっきりわかる』 白尾元理／著 誠文堂新光社

『月の名前』 高橋順子／文 佐藤秀明／写真 デコ

『日本人なら知っておきたい伊勢神宮と125の社 観光に便利！神宮全社のアクセスMAP付き！！』 辰巳出版

『古事記 新装版』 太安万侶／撰 西宮一民／校注 新潮社 ※この本はふるさと文庫で読んでね！

『東洋神名事典』 山北篤／監修 桂令夫／〔ほか〕著 新紀元社 ※この本はふるさと文庫で読んでね！

『中国神話・伝説大事典』 袁珂／著 鈴木博／訳 大修館書店 ※この本はふるさと文庫で読んでね！

YA・
伊勢図書館
X(旧 Twitter)



@selibYa

